

第3回神戸市体罰を許さない学校づくり検討委員会 協議内容要旨

○と き 平成25年7月2日(火) 14:00~16:00

○ところ 神戸市総合教育センター 701号室

名 前	内 容
スクール サポーター)	<p><スクールサポーターより></p> <p>私がこれまで通ってきた小・中・高校、部活動でも体罰はなかった。</p> <p>私がスクールサポーターとして行っている学校で、子どもたちが落ち着くように、子どもの机の位置を工夫している先生がいらっしゃって勉強になった。</p> <p>スクールサポーターの経験の中で、こうすればよかったということは、「子どもをほめる」ことで、それが信頼関係を築くことになると思った。部活動では、教員と生徒が共通の目標をもつことが大事だと思う。</p>
委員長)	<p><学校への意見書について></p> <p>体罰の問題は、暴力の連鎖を生み出し、自分の子どもたち、次世代にもつながっていくということを押さえておく必要がある。</p>
委 員)	<p>体罰を表す事例が掲載されているが、はっきり体罰と分かる事例ではなく、どちらか迷うような事例の方が、教員の意識に働きかけるものがあるだろう。</p>
委 員)	<p>「スポーツの楽しさや喜びを味わい」とあるが、スポーツの楽しさや喜びを味わうには、自分が自分に課した限界を超えていくのは必要なことである。しかし、指導者が限界を課し、それを越えさせようとする指導は、体罰につながっていく。</p>
委 員)	<p>肉体的なことだけでなく、精神的に要求されたことで、悩んで学校に行けなくなったということもある。例えば、チームプレーの結果をすべてキャプテンの責任にする。キャプテンなのに、みんなをまとめられていないから負けたんだというように、個人が攻撃され、精神的な苦痛を受けて不登校になってしまう例がある。</p>
委 員)	<p>体罰発生時の対応で、学校だけの対応でなく、学校評議員など外部の方を入れて、何らかの判断を仰ぐということも必要ではないか。</p>
委 員)	<p>学校と地域の連携は、かなり定着している。例えば、学校評議員と定期的に会議を行い、体罰のことをはじめ、教育について理解や協力をいただくことができると思う。</p>
委 員)	<p>チェックリストの中で、「普段から子どもの顔を見ながら声をかけて人間関係づくりをしているか」という項目も必要だと思う。もう一つ、教員は授業を通して子どもとの信頼関係をつくるので、「明るく楽しい授業づくりを日々意識しているか」というチェックポイントもあった方がよいと思う。</p>
委 員)	<p>教員が生徒を注意するときは、必ずある程度の緊張関係が生まれる。対立関係であると、子どもは教員の言うことをきかない。教員が生徒を指導するときに、対立関係を生まないように、上手に話を聞かせるための配慮が必要だと思う。</p>
委 員)	<p>チェックリストの信頼関係構築の中に「保護者の目を見て話をするを心がけますか」というチェックはあるが、「子どもの目を見て話をするを心がけますか」という項目はない。昔は当たり前ことであったが、言葉に残すことがこれからの若い教員に必要なことだと思う。相手の言葉にうなずくという基本的なことがだんだん伝えられない時代になってきているから、若い教員にソーシャルスキルの研修をしてい</p>

委員)	<p>く必要がある。</p> <p>教員の指導法の過信というのは、子どもを追い詰める。教員は正しい、子どもは間違っているという考えはよくない。</p>
委員長)	<p><リーフレットについて></p> <p>教員は、まずリーフレットを見て、ここのところはどういう意味なんだろうということで見聞書を見ると、きちっと説明されているという扱い方になるのかもしれない。</p>
委員)	<p>どこかに、「保護者にも生徒にも、説明ができますか」という言葉を入れておく方がよい。体罰をした後で自分を振り返るときに、「説明ができますか」という言葉があれば、抑止力になる。</p>
委員)	<p>体罰が起こる場面で、教員が感情的になっていると、結局、手詰まりになって、体罰しかない、体罰は即効性があると思ってしまうのだろう。そこから指導法の改善がなくなってしまう。指導者としては、そこが一番恐ろしいところである。</p>
委員)	<p>体罰をすれば、教員側にリスクが大きいことは分かっているだろう。自分の行動が体罰に当たるかどうかのところを考えるための啓発が一番大事だと思う。ほとんどの教員が、自分は該当しないと思っている。その意識を上げない限り、体罰に対する意識が上がらない。</p>
委員)	<p><その他></p> <p>新聞に、高野連のアンケート結果についての記事があった。体罰について「指導するうえで必要」との回答が、全体の1割認められた。体罰がいけないことを認識した上で、体罰が必要だと考えている指導者がいる。</p>
委員)	<p>差別にかかわる体罰についてはどうか。障害のある児童生徒などについての体罰はあるのか。</p>
委員)	<p>障害のある児童生徒に対しては、学校にコーディネーターを配置して個別支援をしている。また、障害がある児童生徒へのかかわりについては関心が高くなっており、障害にかかわっての体罰はないと言えるだろう。</p>